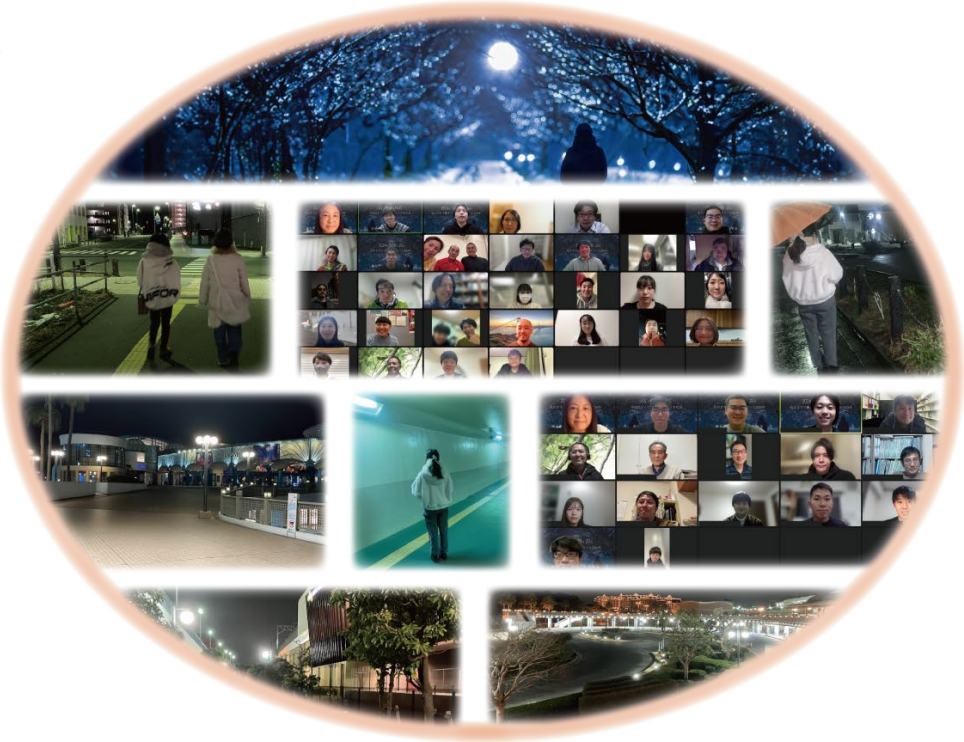
私のまちで東京ストリートカウント 2024 冬

―誰も寝ていないことを祈る―



活動報告

ARCH
through Community Design

◆はじめに

ARCH は 2024 年 1 月 19 日/20 日の深夜、「私のまちで東京ストリートカウント 2024 冬－誰もいないことを祈る－」を実施しました。本企画は市民一人ひとりが同じ夜にそれぞれの暮らすまちを見守り、心配な状態にある人との出会いを記録する市民参加型の夜間路上ホームレス人口調査です。

2021 年、2022 年と夏に開催してきた私のまちストカンですが、今年は初めての冬の開催となりました。夏とは違う極寒の冬の中での本企画の開催概要、調査結果、参加者の声を報告します。

目次

◆開催概要 …2
◆当日の流れ …2
◆主な調査結果 …3
〇まちごとの結果
〇全体としての結果
◆参加者層 …7
◆参加者の感想 …8
◆今後に向けて …１０

◆開催概要

【表】調査の実施概要

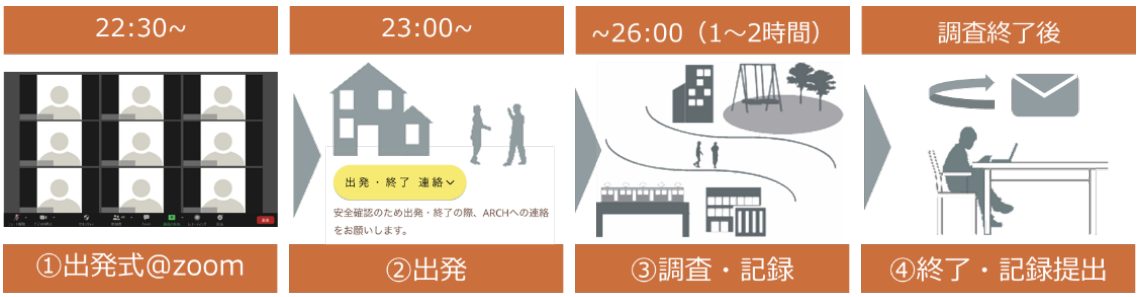
日時	1 月 19 日（金）深夜	1 月 20 日（土）深夜	他日
場所	各参加者の「私のまち」（自宅のある地元駅周辺、近隣の公園など）		
天気	曇り	雨	―
最低気温	2.7℃（東京都）	3.9℃（東京都）	―
参加者数	63 名	30 名	1 名
同伴者数	13 名	3 名	―
見守った「私のまち」	49	17	1
出会った人 調査したもの	「野宿している人」 「確かではないが今晩行き場がなくここにいると思われる人」 「それ以外で心配な状態にある人」 「野宿している人のものと思われるテントや小屋、荷物」		

※両日参加：5 名

両日ともに寒い冬の夜の中、また二日目は冷たい雨が降りしきる中、一日目 63 名、二日目 30 名、他日 1 名、計 89 名の参加者がそれぞれの「私のまち」を見守りました。他にも、参加者と共に歩いてくださった同伴者（参加登録なし）が 26 名おられました。

合計で 67 の「私のまち」を見守り、参加者は寒い冬の中、心配な状態にある人がいないことを祈りながら、「野宿している人」「今晩行き場がなくここにいると思われる人」「それ以外で心配な状態にある人」との出会いを記録しました。

◆当日の流れ



【図】当日の流れ

当日は 22:30 から zoom で出発式を行い、参加者と共に注意事項を共有し、その日の夜一緒に歩く人がいることを確認しました。その後、23:00 以降に各自で調査を開始し、1～2 時間程度、参加者はそれぞれの「私のまち」を歩き、出会った人や置かれている荷物の記録を行いました。

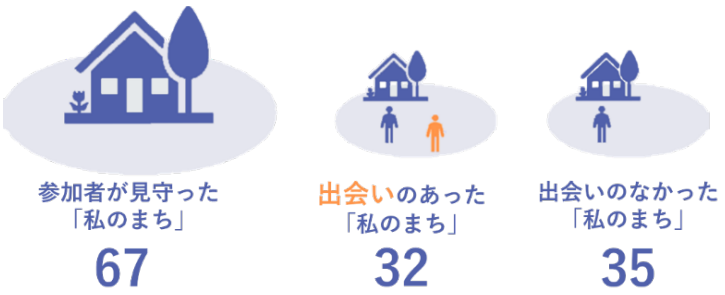
帰宅後、見守った記録（歩いたルート、出会った人・記録したモノ、感想）を本部へ送信し、他の参加者とお互いの感想をオンラインで共有しました。

◆主な調査結果

〇まちごとの結果

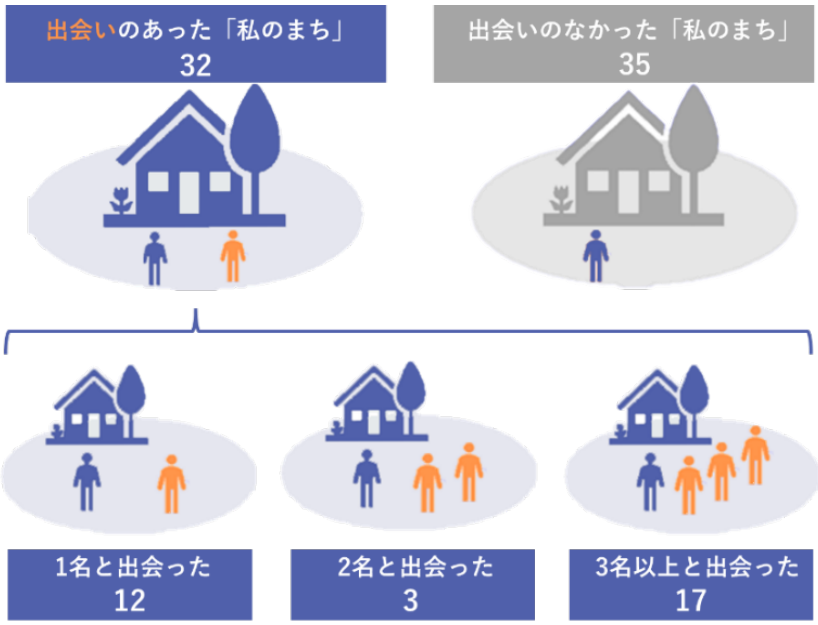
参加者延べ 94 名で見守った「私のまち」は 67 ありました。見守った 67 の「私のまち」のうち半数近い 32 のまちで何らかの心配な状態にある人との出会いがありました。昨年夏は約 2/3 の「私のまち」で出会いがありましたが、今回二日目は全国的に雨天だったということもあり、今冬はそれよりも少ないという結果になりました。

それでも、約半数の「私のまち」で、冬の寒い深夜に何らかの心配な状態にある人が屋外にいることが確認されました。



【図】出会いのあったまち・なかったまちの数

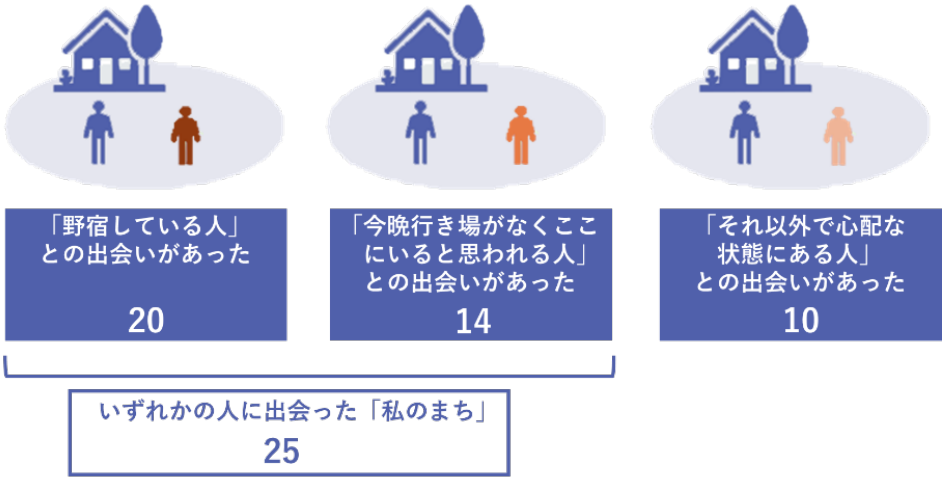
32 の出会いのあったまちにおける出会った人の人数をみると、1 名だけと出会ったまちが 12、2 名と出会ったまちが 3、3 名以上と出会ったまちが 17 となりました。新宿や渋谷等の炊き出しを行っている地域だけでなく、一般の住宅街のような支援が行き届かない場所にも、そして真冬の寒い季節においても、心配な状態にある人が多数いることが確認されました。



【図】出会いのあったまちの数（出会った人数別）

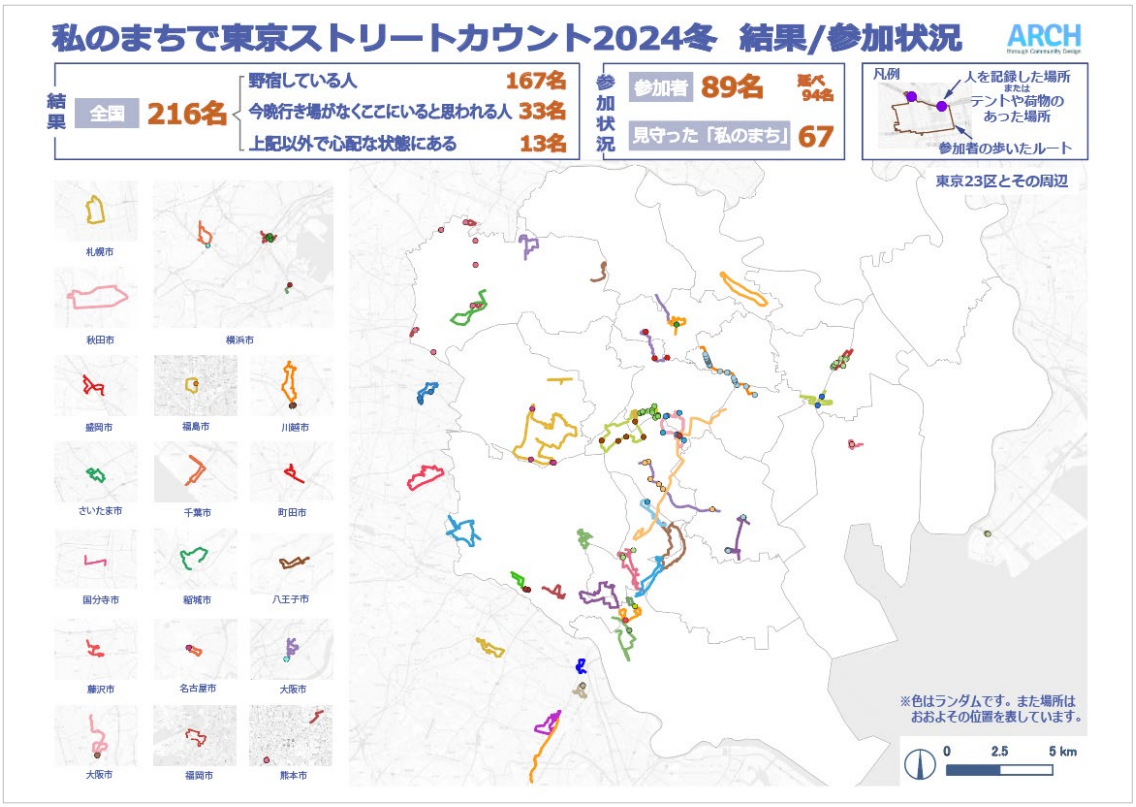
次に、どのような状態の人に出会ったのかをみると、「野宿している人」との出会いがあったまちは 20、「確かではないが今晩行き場がなくここにいると思われる人」との出会いがあったまちは 14、上記のいずれかの人に出会ったまちは 25 でした。

「野宿している人」あるいは「確かではないが今晩行き場がなくここにいると思われる人」は、少なくともその晩は屋外での不安定な居住状態（広義のホームレス状態）にある人々であり、参加者が見守った 67 のまちのうち、約 4 割弱（37%）のまちで、こうした居住が不安定な方と出会ったことになります。



【図】出会いのあったまちの数（状態別）

〇全体としての結果

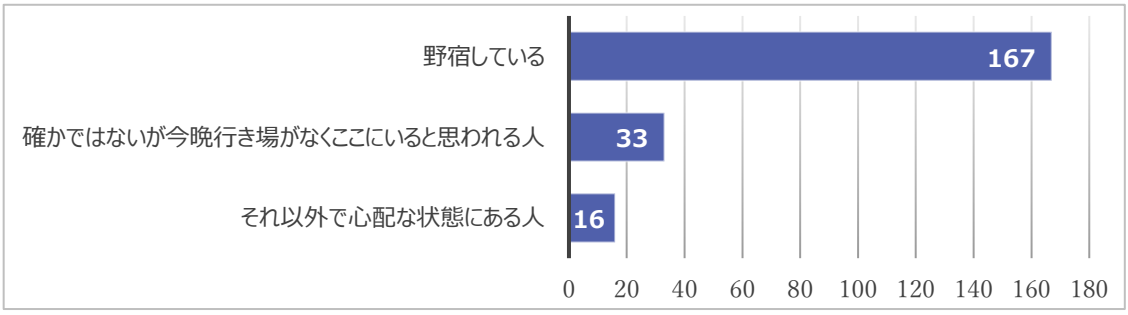


【図】調査結果まとめ（参加者の歩いたルートと出会いのあった場所）

上図は調査結果をまとめたものです。

「私のまちで東京ストリートカウント 2024 冬」では合計で 216 名の心配な状態にある人との出会いがありました。その中で、「野宿している人」が 167 名、スーツケース等大きい荷物をもってベンチに座っていたり、駅の階段に座り込んでいたりする「確かではないが今晩行き場がなくここにいると思われる人」が 33 名確認されました。合計で 200 名の人々が、少なくともその晩は屋外での不安定な居住状態にあることが確認されました。

その他にも、寒い冬の夜に、小さい荷物を持って一人でベンチに座っている人など、参加者が歩いている中で気になった「それ以外に心配な状態にある人」が 16 名いました。この状態の人は全体の 8%と昨年（24%）よりかなり少ない結果になりました。過去 2 回の調査では、深夜に出歩く中高生などの記録が見られましたが、今冬の調査ではそうした若者が減ったことが影響していると考えられます。

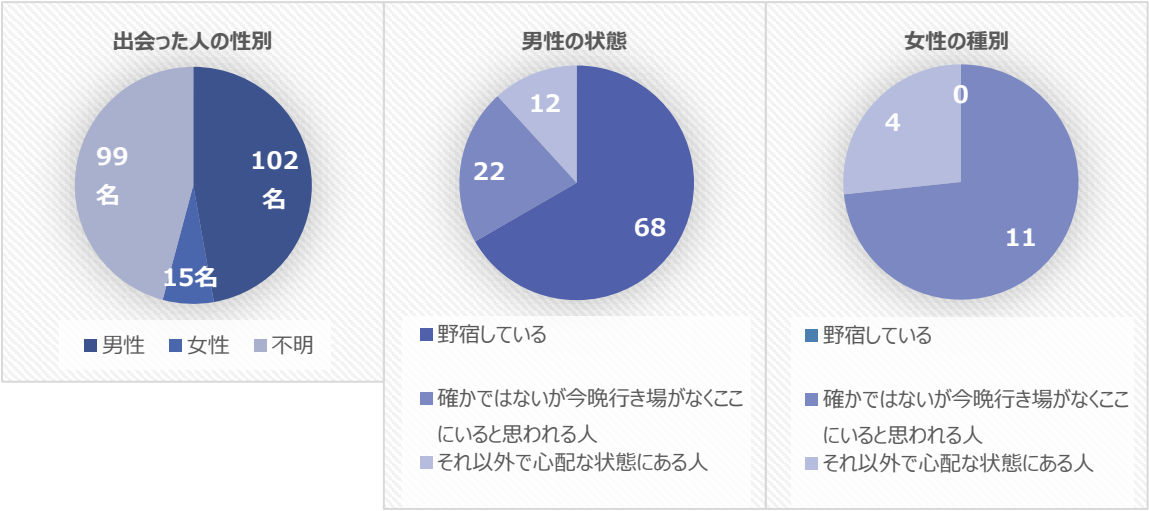


【表】出会った人の人数（状態別）

出会った人の性別では男性が 102 名、女性が 15 名と男性の方が多い結果となりましたが、例年と比べると女性の数が多い結果となりました。

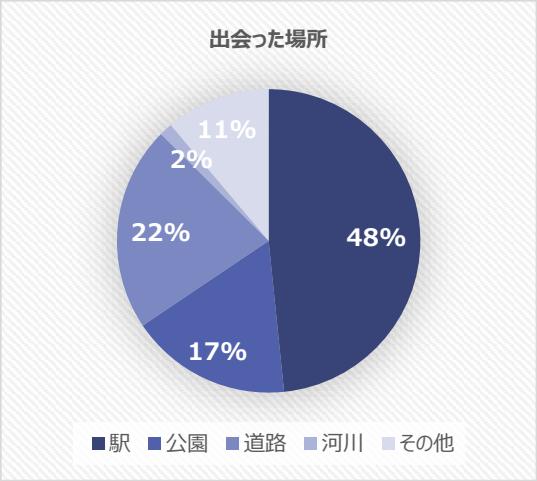
また、男性で「野宿している人」は 102 名、「確かではないが今晩行き場がなくここにいると思われる人」は 15 名、「それ以外で心配な状態にある人」は 99 名おられました。

一方、女性で「野宿している人」はおらず、「確かではないが今晩行き場がなくここにいると思われる人」が 11 名、それ以外で心配な状態にある人が 4 名と、男性よりも女性の方が、今晩行き場がないと思われる人が多いことがわかります。



【図】出会った人の性別ごとの人数、性別ごとの出会った人の状態

出会った場所では、駅が最も多く 48%、次いで道路が 22%、公園が 17%、河川が 2%であった。具体的には駅の地下道や駅前広場、高架下の道路、公園のベンチなどで多くの人と出会っていることが分かりました。



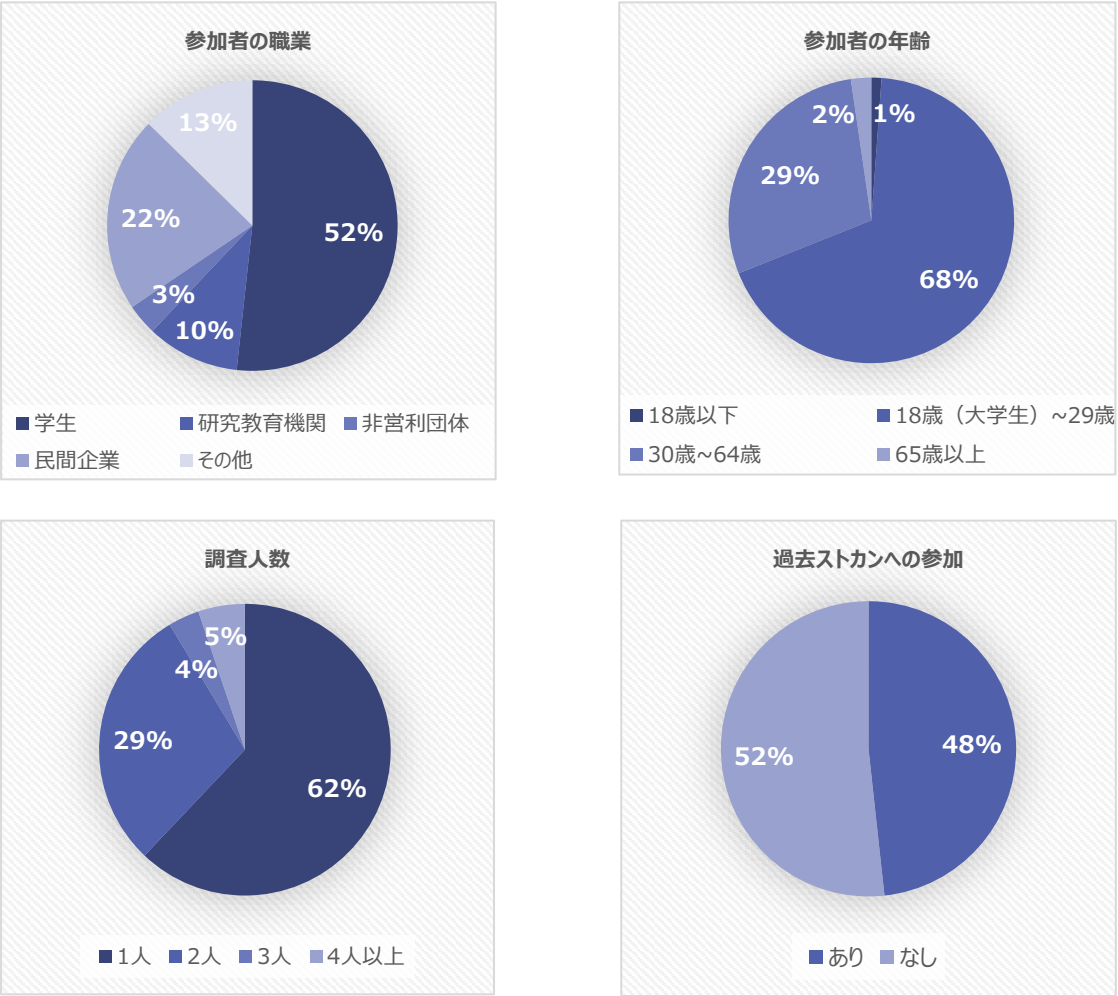
【図】出会った場所

◆参加者層

参加者の職業としては、学生が最も多く 52%、次いで民間企業の方が 22%でした。学生が多いこともあり、年齢も 18 歳～29 歳の方が 68%を占めました。これは過去のストリートカウントと同様の傾向でした。

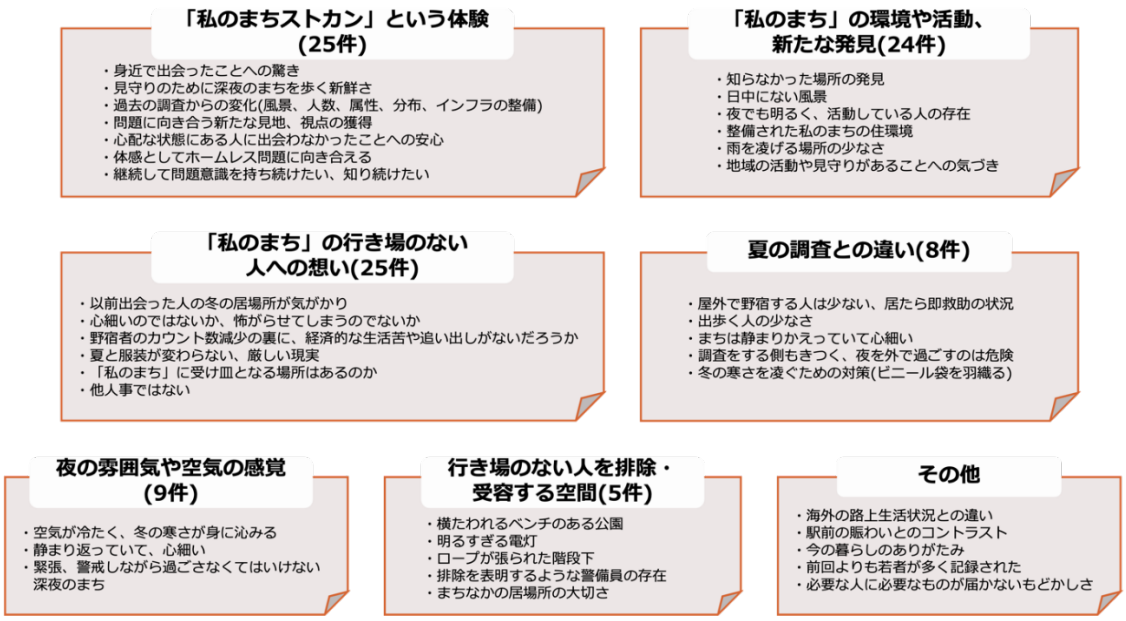
調査を実施した人数に関しては、同伴者を伴わず、1 人で歩いた参加者が 62%と最も多く、次いで 2 人で歩いた参加者が 29%でした。過去のストリートカウントでは、同伴者を伴う参加者が多かったことから、今回の結果はこれまでに見られない傾向であり、寒い冬の中、夜出歩くことに対して抵抗がある方が多かったことが考えられます。

また、今回の私のまちストリートカウントでは過去に参加したことのない参加者が 52%と半分以上を占める結果となりました。本企画をきっかけに少しでも多くの方が「私のまち」に関心をもち、日常的にまちを見守るようになるようには、新規の参加者を募り、この活動の意義を伝えていくことが重要だと考えています。



【図】参加者の属性

◆参加者の感想



【図】 参加者の感想（項目まとめ）

今冬の「今回の私のまちストリートカウント」の参加者のみなさんに感想をお聞きし、65 名から回答をお寄せいただきました。

感想全体を分析し類似するものをまとめ、大きく分けて 7 つの分類に整理しました。図にある件数は、それぞれの項目に該当することが述べられた感想の数です。

今回は初めて参加した方が多かったことから、「『私のまちストカン』という体験」を経ての感想が多く見られました。同時に、「『私のまち』の行き場のない人に対する想い」や「『私のまち』の環境や活動、新たな発見」への言及が多かったことから、参加者のみなさんにとって「私のまちストカン」は行き場のない人へ思いをめぐらせるとともに、「私のまち」を新たな側面から見直す/再発見する機会となっていると言えるでしょう。

また、「私のまちストカン」では初めてとなる冬の開催となり、以前からストカンに参加してくださっている方からは夏の調査との違いについての報告をいただきました。夏に比べ深夜のまちを出歩く人は少なく参加者自身も心細い、氷点下の地域においては屋外で野宿しているのを見かけたら救助を要する、という状況下で歩いたことで、今回のテーマである『誰も寝ていないことを祈る』というフレーズを意識する瞬間が何度もあったのではないでしょうか。

以下、感想の一部をご紹介します。

●「私のまちストカン」という体験

「想像していたよりあたたかく歩くことができた。しかし、一晩でも外で過ごすことはできない。『ホームレスの人たちは選んでその生活をしている』と思っているひとにこそ、ストリートカウントの体験をしてほしいと思った。誘って同行してくれた友人二人も、今回のストリートカウントが理論ではなく体感としてホームレス問題を一緒に考えるきっかけになったようで良かった。」（民間企業・女性）

「街の在り方を見つめ直す機会になりました。同行者とは、ホームレスの方の居場所創造について話しました。どんどん進んでいく都市開発の一方で、取り残されていく人たちに意識を向けるきっかけになりました。」（学生・女性）

●「私のまち」の環境や活動、新たな発見

「今回の調査でホームレスの方と出会うことはなかった。その代わり通っていた小学校や最近通ってなかった道へ行き、新しいお店が出来ていること、昔と変わらない場所があることを知れた。また安全な街だと思っていたが、『この辺りは１人で歩くの怖いな、、』など夜の街を歩くことで分かることもあった。」（学生・男性）

●「私のまち」の行き場のない人に対する想い

「寒空の下で、きっと一人で歩いていたら寂しく夜道の怖さを感じていたかもしれませんが、3 人で歩くだけでこれらの感情が軽減されたのが分かりました。それでも閉鎖的な公園を歩くときは 3 人いても少し怖いと感じました。(中略)もしかしたら、公園に一人で佇むその人のほうが周りの世界は怖く見えてしまうのではないでしょうか。今回のストカンのサブタイトルにもある通り、歩いている途中で『誰も寝ていないことを祈る』という言葉を何度も思い出しました。」（学生・女性）

「寒さの中で夜を過ごすことの難しさと、それでも外で過ごしている人がいるということに、それがやむを得ないことなのか、それとも自ら選択していることなのか、疑問に感じました。」（非営利団体・女性）

●夏の調査との違い

「今回は初めての冬の開催ということでしたが、『寒い夜の街で寝ている人がいるかもしれない』ということを思うと、調査をしている立場の自分も心細くなる気持ちがしました。空気の冷たさ、街の静けさなど、夏とは違う光景の中を自分の足で歩くのはストカンを何回やっていても毎度違った感覚があるなと気付かされました。」（民間企業・男性）

※上記の感想は本人からの掲載許可を得ています。また、一部個人情報に関わる文言や特定の場所に関わる文言は削除しました。

◆今後に向けて

ARCH は 2021 年夏から今年の冬にかけて計 3 回、「私のまちで東京ストリートカウント」を参加者のみなさんと共に実施してきました。こうした調査が実施されることで、はじめて、主要駅周辺や繁華街以外の住宅地などにも不安定な居住状態の人々がいる、という問題を提示することができます。

同時に、「私のまちで東京ストリートカウント」は、多くの人々が自らの「私のまち」の心配な状態にある人を見守るきっかけになるのではないかと思っています。お年寄りも子どもも、裕福な人もそうでない人も、そして住まいを持たないホームレスの人も、同じ「私のまち」の隣人です。市民一人一人が日常的に「私のまち」を見守り、心配な状態にある人を互いに気にかけ、時に助け合うことができる社会の実現を目指していきます。

現在、ARCH では、年 1 回実施するストリートカウントからステップアップし、より多くの市民が日常的に「私のまち」を見守ることを可能にするためのツールの開発を進めています。たくさんの市民が、「私のまち」を見守れるよう、次回のストリートカウントに向けて準備を進めていきます。

「私のまちで東京ストリートカウント 2024 冬－誰も寝ていないことを祈る」
活動報告書

＜発 行 日＞ 2024 年 6 月

＜ 制　 作 ＞ ARCH（Advocacy and Research Centre for Homelessness）

＜ 連 絡 先 ＞ arch.cd.office@gmail.com

＜郵便送付先＞ 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学 環境社会理工学院 土肥研究室気付

＜ リ ン ク ＞ ARCH ウェブサイト：https://www.archomelessness.org